

KINDAI KENCHIKU

近代建築

July

7

Vol. 79
2025

特集 学校建築

監修 長澤 悟

共創の学校づくり — 学校らしくない学校とは —



文京区立誠之小学校

東京都文京区

設計・監理／佐藤総合計画

施工／日本・アサヒ・リン・ドス建設共同企業体



東側より校舎に囲まれた校庭を見る。既存樹木のイチョウ2本とエンジュは存置し、地域を迎える街区景観を実現した

設計主旨

― 伝統を育んできた丘を継承し進化する学校 「児童と歴史を育む誠之の丘」―

誠之小学校は、“誠之人道”の精神のもと、学校、保護者、地域がともに協働し築き上げてきた長い歴史と伝統を有する学校である。高密度が続く低層住宅街区での児童数増に対応するために、学校開設150年来の地で改築を

行った。敷地の南北東側は住宅が密接、西側は高低差10mの崖地である。長年の増築により敷地は崖地側に回り込み、不整形に建て詰まっていた。地形の分析と技術的考察を重ね、敷地制約を活かし、様々な場面が展開する学校、地域を迎える街区景観を実現した。

― 街区の魅力を再発見、継承する施設構成

建物配置は、西側崖地に体育館と地域開放

エリアを確保し、東側高台はシンボルツリーのイチョウとエンジュを残し、110mトラックと50mの直線走路を実現しつつ南向きの教室棟を確保している。また、西側体育館上部には校庭に対して開放的な教室群を配し、校庭から西側へ眺望が広がり、風が抜ける丘の上の学校とした。

普通教室棟は無梁版とすることで、階高3m

建物高さ制限10mに対応した普通教室棟 教室棟は極力北側に配置し、南側に広い校庭を確保した





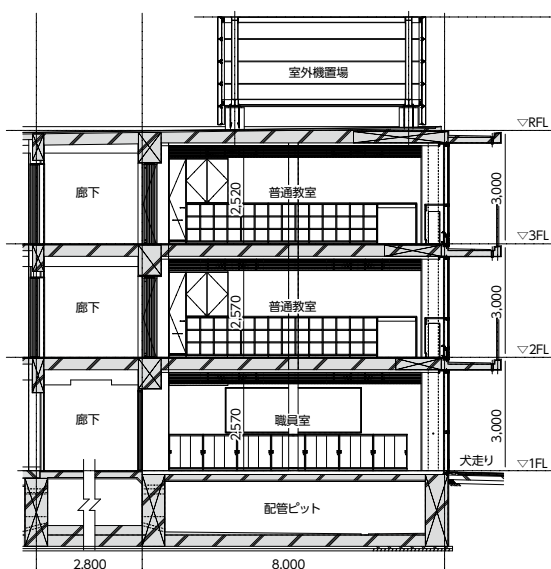
の3階建てで高さ制限10mに対応した。体育館は崖地を活かし地階ながら外気に面する配置とし、崖地の安全改修と景観との調和を両立した。また崖に沿った北側に特別教室とプール、南側に低学年棟と専用庭を配置した。これらにより、低層校舎が校庭を囲み、住民を迎える景観を実現した。

— 制約を利点に、独自で多様な生活・学習空間
階高を抑えたことに伴い、天井高さも住宅同程度の2.57mに抑えることで、教室は落ち着いた空間となった。一方、窓開口は床から天井までとし、耐震要素を廊下側に集め、窓側柱を300φとすることで、風景が拡がり校庭を近く感じられる教室とした。校舎が南北に伸びた部分では、崖地も活かし、特別教室や低学年教室ならではの個性のある

多様な居場所を設えた。

— 空調負荷を抑えた快適な体育館

体育館は地下階にあるため、外周3面が土に面し1面がドライエリアと廊下に面している。さらに、上部には教室がある構成となっていることから、同規模の地上設置型の体育館に比べ、冷暖房時の空調負荷を64%、CO₂換算で10.7t/年の削減を実現した。 (渥美 潤/佐藤総合計画)



断面図 縮尺1/200



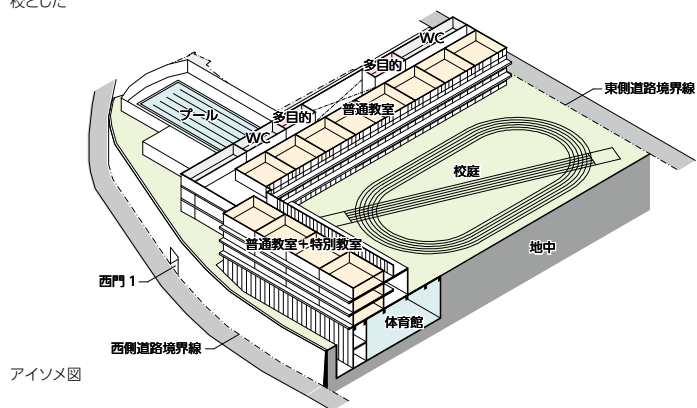
透明感を感じる普通教室ファサードの夜景 外周部の300φの柱と、無梁版+大きな開口部が低階高でありながら開放感のある教室としている



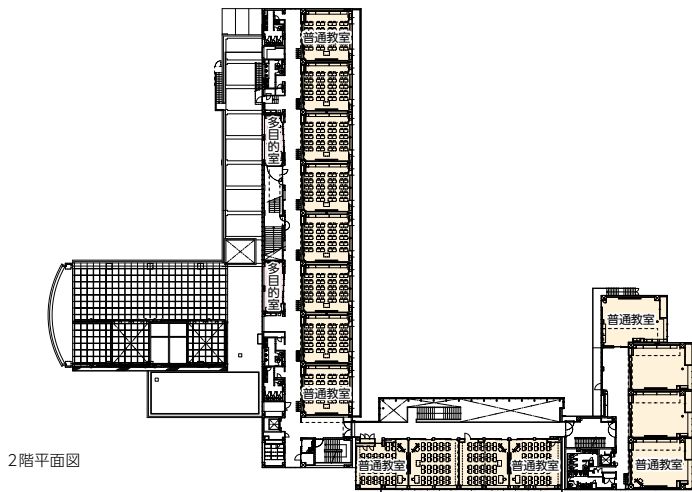
校庭が一望できる低学年用昇降口の吹抜空間



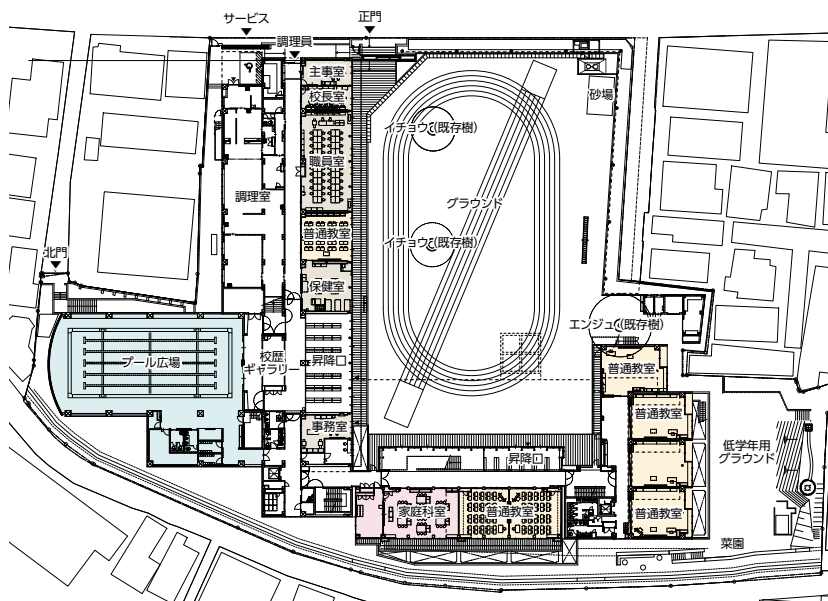
敷地南側に配置したピオトープ越しに低学年棟を見る。敷地の特性を活かしながら、様々な場面が展開する学校とした



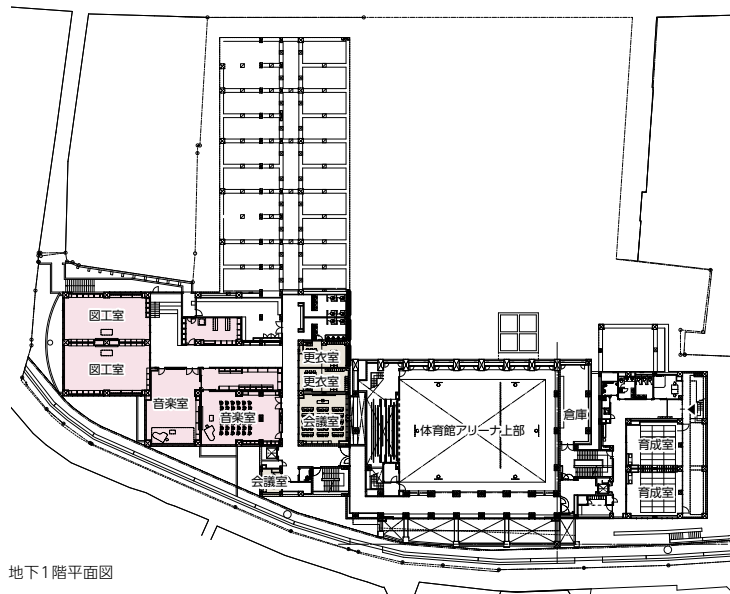
アイソメ図



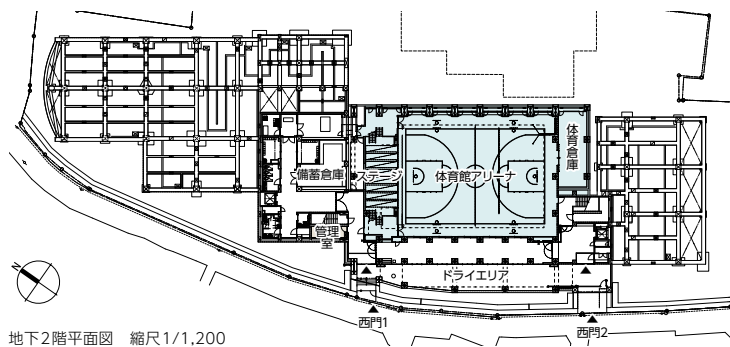
2階平面図



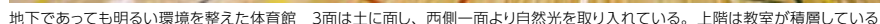
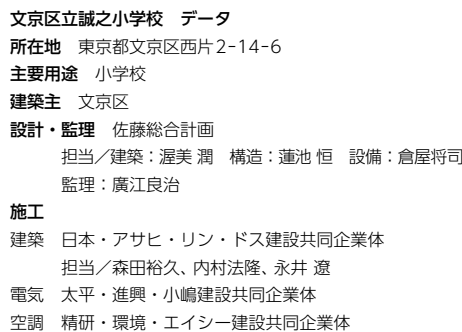
1階平面図



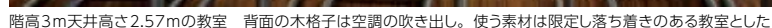
地下1階平面図



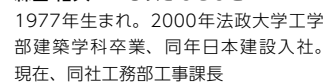
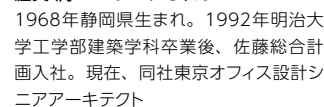
地下2階平面図 縮尺1/1,200



左/縦格子を基調とした体育館の内観。ドライエリアから格子越しに柔らかな自然光が入る 右/廊下側の木建具は、引き込み式で柱脇に収納ができる。床までの窓開口は、校庭を近く感じることができる



撮影／篠澤建築写真事務所



杭	工	事	東建エンジニアリング
鉄	骨	工	鎌ヶ谷巧業
鉄	筋	工	小黒組
金	属	屋	三晃金属工業
コンクリート	打放面	塗装材	大日技研工業
タイル	工	事	泰正
内装仕上	工	事(洗面工)	エクロール
パ	ー	ティ	小松ウオール工業
フ	ー	リ	昭洋樽製作所
家	具	・	才力ムラ
黒	板	工	青井黒板製作所
サ	イ	ン	昭板工芸